

# カミノトピックス

## 大きくなって帰ってきてね！

千歳には、さけ・ますの生態を見学できる施設として「さけのふるさと館」がありますが、もう一箇所さけます類の個体群維持のために大変重要な施設があります。

今回は『さけますセンター千歳事業所』様と『さけの里ふれあい広場』様をご紹介します。

我が国では、17世紀頃から産卵のため川へ帰ってきたサケを捕獲し、天然産卵を促す試みが行われていました。1888年（明治21年）、官営の千歳中央孵化場（現在のさけますセンター千歳事業所）が千歳川流域に設置され、これを契機にサケの人口ふ化放流が北日本各地で進められてきました。

1952年（昭和27年）、水産資源保護法の施行に伴い水産庁北海道さけ・ますふ化場が設置され、国が中心となって積極的にさけます類の増殖を推進した結果、1970年代（昭和45年）以降、サケの資源量は飛躍的に増大しました。長い歴史を持つさけます増殖事業によって、我が国のさけます資源量は極めて高い水準に達しましたが、資源変動の増大、遺伝的多様性の保全、生態系への配慮など多くの課題が残されています。こうした課題を解決し、さけます類の適切な資源管理に資するため、1997年（平成9年）10月、北海道さけ・ますふ化場は、さけ・ます資源管理センターに改組されました。その後、独立行政法人さけますセンターとなり、2011年（平成23年）北海道区水産研究所と統合し、現在の体制となりました。

千歳事業内にある「さけの里ふれあい広場」には{展示館}と{体験館}の二つの施設があり、{展示館}の7tの大型水槽では、季節によってサケやベニザケ、サクラマスなどの親魚などを観察したり、実物大のサケの模型で、実際の重さや質感を体験できるほか、{体験館}では映像システムでふ化放流事業の仕組みを知ることや、稚魚のエサやりを体験できます。個人はもちろん小中学校の団体見学も受け入れています。入館料も無料なので、ふ化放流事業のあゆみ、さけます類の種類・分布などを、パネルや模型などでわかりやすく解説している「さけの里ふれあい広場」に是非一度訪れてみてください。

（談：SINKA・国府田）



ここが北海道のニジマス  
養殖発祥の地です



さけの稚魚に触れることが  
できます



7tの大型水槽では季節によって  
色々な親魚の観察ができます



あつくん

「さけの里ふれあい広場」  
独立行政法人 水産総合研究センター  
さけますセンター千歳事業所内  
〒066-0068 千歳市蘭越9番  
TEL 0123-23-2804  
FAX 0123-23-2449  
URL <http://salmon.fra.affrc.go.jp/>

## 減らすことに・・・

業務の行動目標の中に、返品数を減らすという項目があります。これは、受注入力ミスを減らす、お客様のお話を的確に聞き取りをするという目的もあります。過去3年間の1月から6月までの返品商品の数は減少していますが、簡単に良かった良かったと言う事にもなりません。

返品内容では、お客様の注文時の数量、色、サイズ等の規格間違い、重複注文、思っていたのと違った、予算不足になった、使い勝手が良くない等があります。

また、受注時の入力ミス（数、色、サイズ）、聞き間違い、見間違いの基本的な単純ミスも多々あり、今後も検証し改善を進めなければと思っています。

商品内容としても、文具関連の商品が8割を占めていますが、商品も多様化してきて最近では買い継ぎ商品も多くなり、以前と比べて問屋で在庫を持つということも少なくなりましたので、簡単に送り返すことができないようになってきました。特に電器メーカー品はほぼ返品不可が当たり前になっています。返品許可書類を提出し承認を得て返す場合も多く、運賃負担、送り先も埼玉、東京、大阪、広島など商品発送センターになります。これも昨今の多種管理の流通システムの変化からです。

ほんの少しの注意と確認でミスを無くす事ができる。これをしっかりと実践していきたいと思っています。今後も業務、営業に対し忌憚ないご意見、ご指導をお願いします。

また、お客様の実践例など教えていただければと思っています。

（談：J.R・西道口）



## 「R. flow」 OPEN!!

今回は信濃 4 丁目にある『株式会社 彩光』様を取材させて頂きました。彩光さんは地元のみなさんご存知のようにクロス（壁紙）・クッションフロア・カーペット・カーテン・リフォーム等内装仕上げの会社です。新社屋が今年の1月に完成し4月からは事務所に隣接してショールーム兼手作り雑貨のある喫茶店『R.flow』をオープンさせました。今日は食事かたがた社長の奥様に取材させて頂きました。

Q：新社屋完成おめでとうございます。

A：ありがとうございます。仮事務所での営業中は、ご不便をおかけ致しました。今後より一層みなさまの快適な暮らしへのお手伝いをするために努力を重ねていくことをお約束します。これからも彩光をどうぞよろしくお願い致します。

Q：事務所に隣接してどうしてR. flow をオープンさせたのですか。

A：ショールーム兼多目的ホール、情報発信の場として。店内、窓廻り装飾や壁紙など参考になる空間を、又以前からやっていた手作り作家さんの講習会にコーヒー、ケーキセットもプラスした形でオープンしました。ですがいざ始めたらお客様からの要望もあり軽食メニューとしてパスタプレートも7月20日にスタートしました。

Q：店名の由来を教えてください。

A：建物の型そのものと情報発信場としての空間という意味です。

Q：最近登場したMr カフェボールとは何ですか。

A：Mr カフェボールはR. flow の広告塔。甘くてちょっぴりほろ苦い。店頭で甘い香りでお客を誘うあのお菓子がそっくりなマスコットです。当店のテイクアウトー押商品です。

Q：R. flow ではいろいろなイベントもやっているそうですが。

A：7月29日（日）には木工体験。夏休み企画として親子でご参加いただいたのですが、暑い中一生懸命作り楽しい時間を過ごされたかと思えます。8月にも11日、18日にスイーツデコやパストリー作りとまだまだ夏休み工作として開催予定です。是非お越しください。

本日は地産地消の美味しいパスタプレートセットをいただきながらの取材ありがとうございました。関するお問い合わせはTel.26-3020 かフリーダイヤル0120-408-114 までお願い致します。

（談：Eyes・田中）



向かって右が「R.flow」



かわいい手作り雑貨がいっぱい 教室も随時開催



お洒落なパスタプレートランチ



一見「東京ケーキ」のようですが、ちょっと大人の風味で一口サイズのお菓子 食べたるとまりませんよ

北海道も今夏は7%の電力削減を余儀なくされ、場合によっては計画停電も実施されるのではとされていますが、当社も7月14日（土）より9月8日（土）より土曜日の全休や、電気使用量削減のために個人レベル、会社レベルでいろいろなことを実践しています。

急に大きく変化するものではありませんが、気にも留めなければ変化することはない。まだ削減結果などは出ていませんが、日々忘れることなく取り組んでいきます。電力削減の中で、一番注目されるのは”照明”。

LED照明について多くの問合せをいただいています。既存照明と交換する場合、既存照明に近い商品をご提案するばかりではなく、全光束（lm）や広角、演色性などお客様がご使用する環境を考え、最も適合する商品をご提案できるように日々勉強・検証しています。設備投資が多額になることもあります。今後の地球環境対策を考えると取り組んでいかなければいけない事であると実感しています。些細なことでもご相談ください。今後も皆様と地球環境を考えていきたいと思っています。

### ★一例です

	年間消費電力	年間電気代	年間CO2 排出量
直管蛍光灯 40W*10 本 1日12時間/365日使用の場合			
LED 蛍光灯 22W にした場合 ※電気代は 22円/kwh			
既存 40W	2,056kwh	45,289円	865kg
LED 22W	964kwh	21,199円	405kg
差額	1,095kwh	24,090円	460kg

27日（金）PM6:00より体力増進ウォーキング会を開催しました。当日朝はうす曇だったのですが、常日頃の行いの良さからかだんだん晴天へ・・・新富の本社スタートで往復5kmの道のりを約1時間かけて歩きました。（当社のマラソンランナーは2往復しました。さすが！！）車だと素早く動く景色も、歩きながらだとゆっくり見え、日頃気がつかない事も見ることができました。その後は一人2杯までのドリンクと食事を楽しみました。8月17日（金）には恒例の千歳市民納涼盆踊り大会もありますので、足腰の予行練習には良かったのでは・・・！？

まだまだ歳に負けない体力作りががんばらなければ！！



学生の皆さんはもう夏休み。学生でもないくせにちょっと浮かれていたのでしょうか、少しの段差に足首を骨折をした私。何をやるにも不自由で、会社の皆さんにお手伝いをいただかなければ日中の生活もままならず、大変な迷惑をかけています。健康であることがどんなに素敵なことか・・・。

怪我をして改めて人の温かさを実感しています。会社の方ももちろんお客様、家族や友人たちに感謝。先日通院した際、松葉杖が上手く使えないため会計の時に落してしまい、後ろにいた老紳士に拾っていただきました。お礼を言うと「お互い様ですから」と笑顔で言っていた言葉に胸が熱くなり、私には他人にこのような言葉はかけることができののだろうか・・・。そして今まで深く考えもしなかったバリアフリーやユニバーサルがどんなに必要なことかも実感。手すりはあるてもなくともではなく、ここには必要と思うところが多々あったり、道幅にも不都合があったりと、私にはいろいろ考え、勉強になる日々でもあります。暑い夏の仕事終わりのビールはおあずけですが、早く治して両足靴を履いて歩きたいです。（小泉）

2012年 7月 31日 VOL. 85

発行元：(株)カミノ

TEL:0123-23-4255 / FAX:0123-24-1381

e-mail: kamino@rose.ocn.ne.jp